

## ショートコメント vol.118 (2018年9月10日)

テーマ：(関空の減便) 輸出面への影響と今後の注目点

～関空からの輸出で目立つのはアジア向けの電子部品～

### ●台風 21 号による関空の運航停止

台風 21 号によって関空が浸水の被害を受け、運航の制限を余儀なくされている。復旧の動きは予想以上の早さで進んでいるものの、現時点で本格的な再開の時期は不透明である。

関空の減便による影響は、もちろんその期間にもよるが、やはり大きなものとならざるを得ない。今次景気では消費の本格回復が遅れるなか、輸出やインバウンドの増加が主要な牽引役となっている。これらをインフラ面で支えているのが関空であり、近年はその重要度がどんどん高まっている。特にインバウンドについては、LCCの就航増加などを通じて、関空自体が好調の立役者ともいえる状況である。

### ●存在感が高まる関空からの輸出

本レポートでは、関西の輸出面における関空の位置づけについて、改めて確認したい。

図表 1 のとおり、近年、関空からの輸出額は増加基調にあり、直近の 2017 年は約 5.6 兆円となっている。リーマンショック前のピークに比べて、1 兆円近く増えた形となる。関西全体の輸出は、いまだにリーマン前を下回っていることから、関空の好調ぶりがうかがわれる。

結果として、関西の輸出全体に占める関空の比率も上昇しており、直近は 34% に達する。その中でも、高い比率を占めるのが電子部品関連である。関西からの一定金額以上の輸出品目で、関空の占める比率をみると、全体として電気関連が高い(図表 2)。特に、電子部品の高さが目立ち、67% という水準に達する。

### ●関空からの輸出品の特徴と今後の注目点

つまり、関空の運航が停止すれば、関西から輸出される電子部品の 7 割に影響が及ぶが、特にその動きはアジアに集中する形になりそうである。というのも、図表 3 のとおり、関空からの電子部品の輸出は、中国やアジア NIEs 向けをはじめ、アジアがほぼ 9 割を占める。

これは電子部品特有の動きでもあり、その他の商品をみると、米国や EU 向けが 3 割程度を占め、アジアの比率は相対的に下がる。

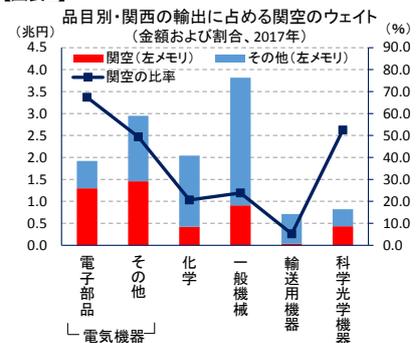
電子部品の用途としては、スマートフォンなどの電気機器や自動車等が挙げられるが、今後、中国や台湾を中心とした生産に支障が出ることが予想される。もちろん、関空以外のルートで供給が進めば、サプライチェーンへの大きな影響は免れるが、他空港に十分なキャパシティがあるかどうかは楽観視できない。

図表 4 は主要空港別の輸出金額であるが、現状は成田と関空に集中

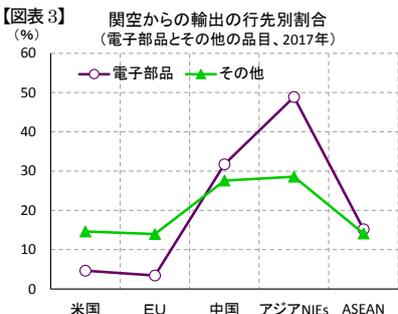
【図表 1】



【図表 2】



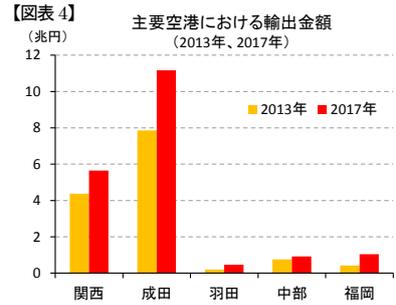
【図表 3】



※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

しており、中部などは限定的なものにとどまる。成田にこれ以上増やす余地があるのかどうか、あるいは、そもそも中部のキャパシティがどの程度あるのかが注目される。もちろん、海上輸送という手段もあるが、各社の対応策をみると、まずは他空港への振替えが中心となっている。

その傍ら、関西の地元空港の暫定利用に関する議論も出始めている。他地域の空港のキャパシティに余裕がないとすれば、その選択肢が企業にとっての生命線となる可能性もあろう。



本件照会先：大阪本社 荒木秀之  
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。